

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690200520		
法人名	社会福祉法人 伏木会		
事業所名	グループホーム如意の里		
所在地	富山県高岡市伏木本町10-8		
自己評価作成日	平成30年7月14日	評価結果市町村受理日	平成30年10月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/16/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kihon=true&JigvosvoCd=1690200520-00&PrefCd=16&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人富山県社会福祉協議会		
所在地	富山県富山市安住町5番21号		
訪問調査日	平成30年8月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者の方々の生活リズム、残存能力を大切に考え、共同生活の中で、その方の気持ちを知り、なじみの職員や、他の入居者らと共に、食事作りや掃除洗濯などの家事を分担して、役割を持ってもらい生活していただいている。
 ・地元自治会の納涼祭や体操教室等の行事への参加、ボランティアの受け入れに力を入れており、地域との触れ合い、関わりを大切にしている。
 ・職員は入居者が喜怒哀楽の感情の中で、共に協力しあい、安心できる環境の中で生活していただけるように、認知症を理解する努力をして必要な支援を行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・食事前に嚥下体操を行い、ゲーム感覚で大きな声を出したり、質問に答えたりしながら、口元を動かすことで誤嚥予防としている。
 ・重要事項説明書が理解しやすい文章である。例えば「拘束」についても具体例をあげている。
 ・共有空間は利用者が過ごすスペースやキッチンが見渡せ、窓からは日差しが溢れ、明るく過ごしやすい空間である。
 ・運営推進会議では地域に密着した多種多様なメンバーで構成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目の届きやすい場所に基本理念を掲げ、職員全員で理念を共有しながら、より質の高いサービスを提供できるように実践している。	理念は職員の仕事スペースに掲げ、各自でケアに活かせるよう理解している。事業所のホームページには理念の掲載はない。	理念は、個人の理解にとどまらず、職員全員の理解が深まるような話し合いの場を期待したい。対外的にも事業所の方針として、周知していくような工夫が望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月2回の公民館での交流や、納涼祭等の行事の参加で地域の方々との交流の機会を作っている。事業所としては月に一度、認知症カフェを開催している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や認知症カフェ、公民館での交流の際に、認知症についての疑問や対応の方法、悩みや意見を聞かせてもらい、話し合いを通して出来る範囲での助言をさせてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見、内容を職員間で共有して、課題に対しての解決策を話し合い、より質の良い支援ができるように努めている。	2か月に1回、月末に開催している。地域の世話役の方々や伏木赤十字奉仕団、ふしき女性の会「鈴」さんなどの参加があり、関心の高さがうかがえる。職員には状況に応じて議事録の一部を伝え、話し合いを行っている。	議事録を参加者に配布することで、次の会議の内容充実が期待される。閲覧できるようファイルにまとめて設置するなど、事業所の取り組みを周知するものとして活用するなど期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業運営、サービス提供についての疑問や困難事例については地域包括支援センターや市の担当部署に相談をかけるようにしている。	行政主催の研修会に参加したり、介護保険に関する相談など、連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について話し合う委員会を月に1回設けて、提供しているサービスの中で、身体の拘束はもちろんのこと、言葉の拘束に繋がる声掛けをしていないかなど話し合い、日々の支援の仕方を見直している。	事業所の各部署の代表者と管理者で月1回の話し合いを行っている。言葉の拘束についてはその都度、管理者や職員同士で注意を促したり、カンファレンスで話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスや委員会の場で、虐待防止への意識を高めて、職員間で互いにあらゆる虐待が行われない、ケアサービスの提供を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は持っていない。勉強会や研修を通して学ぶ機会を設けることを考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を交わす際には、書類上だけの説明でなく、生活を送る中で起こりえる問題や状態の変化による対応、家族の協力も必要になることを理解していただいた上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは気軽に直接話していただけるような関係、雰囲気作りを心がけている。また、家族の方とも日頃のコミュニケーションや繋がりを大切にしている。	意見箱を設置するも投函はない。「グループホーム如意の里だより」はA3サイズで写真が多く掲載されている。管理者のコメントや行事の報告をまとめ、親しみやすい内容になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	予算編成時に、各部署から運営方針や処遇方針を明確にする時点で、職場カンファレンスを通じて意見の集約に努めている。	管理者は話しやすい雰囲気づくりを心がけている。カンファレンスで抽出した意見は、法人代表者会議で報告し、そこで出た有意義な意見はケアに取り入れている。年2回個別面談を行い職員の意見を吸い上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度に目標管理を導入し、個々の目標の達成度を年2回詳細に把握し、個人の評価や、職場環境の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会や各職員の目標管理の中に、研修(不足能力等の修得)を位置づけ、計画的に研修に参加し、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	加盟団体が主催する各種毎の研修やレクリエーションに積極的に参加し、情報の収集を行い、自部署の改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントでは、ただ意見や思いを聞くだけでなく、表情の変化にも気をつけ、聞き出せない本人の気持ちを少しでも知り得るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約を交わす段階では、家族の方が抱えている不安や要望を聞き、グループホームで生活を送ってもらう中での改善点や、不安解消に繋がるように相談にものらせてもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の本人の身体状況や生活状況等を把握して何を必要としているのか、初期支援の内容を見極める。必要とあれば、他のサービスの内容、説明もさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの出来ること、可能性を見つけ出して、やりがいを感じてもらいながら、家事などの役割を持った生活を送ってもらえるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な受診については面会も兼ねて家族の方に付き添いのもと外出してもらっている。その際には本人の様子、状態について報告して家族からも意見をいただき、本人を支えていく上での良い信頼関係を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方の協力を得て、外出・外泊の機会を持ってもらい、馴れ親しんだ場所と、これまで作り上げてきた大切な人間関係が途切れないようなサービスの提供に努めている。	病院受診は家族が付き添い、外食を楽しんだりしている。また、年賀状を書くなど、家族との繋がりを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの様々な思いや性格、生活歴などを踏まえた上で孤立しないように、入居者同士の変化に気をつけて、職員と共に良い関係が作れるようにし、トラブルにならないような配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス提供が終了した後であっても、本人や家族の相談に応じて、必要であれば、助言などをさせていただきよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中での表情や言動、状態の変化などの多くの情報を集め、希望や思いについて本人に確認して、家族と職員間で話し合い、最良のサービスに繋がるように努めている。	日常的に利用者の表情や言動などから利用者の思いや意向の把握に努め、職員間で共有を図っている。対応を職員間で話し合い、笑顔が見られるようになった利用者の事例を話す職員から、より良いサービスを目指す事業所の方針が伺われる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族、ケアマネジャーや主治医といった本人を取り巻く関係者から、出来る限りの情報を収集している。家族には生活歴、特記事項を記入できる用紙を渡して記入してもらい、サービス提供に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りなどから職員間で情報を共有し、本人の細かな表情・状態の変化からのサインを見失わずにキャッチして、心身状態の把握をできるように実践している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや考えを聞き、家族の方の意見を取り入れ、職員間のカンファレンスや担当者会議で話し合い、本人にとって適した介護支援計画になるよう心掛けている。	介護支援計画の策定にあたり、家族の面会時に聞き取りをした内容や、職員及びパートを含む全職員が参加するカンファレンスで意見を出し合い、利用者にとってより良い支援は何かを話し合い策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や排泄、食事量や入浴状況などの記録からの情報を役立てて、職員間での話し合いを経ての実践、さらには介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の思いを聞き、カンファレンスなどの場で検討して、様々なニーズに応えられるよう、行動できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会での行事に参加したり、近隣の保育園児、ボランティアの方々との交流を通じて、暮らしの中で楽しんでいただける場の提供をさせていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居されてからも安心して受診していただけるように、かかりつけ医の継続を勧めている。受診の際に必要なであれば、本人の様子や状態がわかるような記録を持参してもらっている。	事業所に訪問診療の受け入れはない。利用者が希望する医療機関に家族の同行で受診されているが、事情により職員が付き添う場合もある。受診時には家族に連絡事項など書面化したものを渡し、医療機関への情報提供としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活を送る中での気づき、状態の変化に細心の注意を払い、併設事業所の看護師に相談して、助言や意見を聞き、受診等の必要な対応をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院側へ必要な本人の情報を提供している。面会や家族との連絡から、細かな状態確認を行い、退院に向けてのだけの支援をさせていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状では看取りケアを行っていないが、看取りケアに向けての知識の向上や、体制を整えられるように努めている。	入所希望の家族に現段階で看取りケアはできない旨を説明している。管理者は近い将来看取り組まなければならない課題であると認識している。直接職員の意識や認知度について確認していない。	看取りに対する認識や意義について説明を受けたり、研修を重ねることで、職員の心構えや必要性について検討する機会を設けていくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中、夜間共に事故や急患発生時のマニュアルを作成して、職員は流れを把握している。また、職員は救命救急士による初期救命救急の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の職員立会いのもと、日中と夜間の想定で、年2回の避難訓練を行い、指導・指摘を受けて改善に向けて取り組んでいる。地域の防災活動にも利用者と共に職員が参加している。	海岸に近い地域にあり、津波想定訓練を年2回実施している。避難場所は利用者の生活する2階のベランダであり、全員の避難場所に適していない。訓練に参加するのは当日出勤職員のみで、備蓄もほとんどない。	2階から1階への避難経路や、所要時間、車いす利用者の移動に必要な人員等を把握し、シミュレーションすることも必要であり、全職員が参加する計画策定が望まれる。備蓄の整備も進められたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格やその時々思い、考えを尊重して、自尊心を傷つけないよう接している。	利用者に対応する視線や声掛けが優しくゆったりしている。職員の仕事に対する柔軟性や前向きな姿勢があり、利用者一人ひとりに合わせて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間や場所、状況や本人の心身の状態に応じてのコミュニケーションのとり方や、柔軟な関わりを持って、自分の気持ち、思いや希望を自由に表現して決定できるような雰囲気づくりを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活のリズムを把握して、入浴日や食事時間・内容の変更など、可能な限り対応させてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時の着替えについて、自分で衣類を準備できる方には好みに合わせて用意してもらっている。職員側で用意させていただく方に関しては、季節や寒暖に気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	危険が少なく、可能な限りでの調理や盛り付け、食後の食器洗い、片付けを職員と一緒にしている。同じテーブルで職員も食事することにより、コミュニケーションを図っている。外食の機会や、出前を注文するなど、食べたい物を自己決定してもらい、食事を楽しんでもらえるようにしている。	利用者は調理や片付けの手伝いを積極的にされ、職員による誤嚥予防を兼ねた嚥下体操を毎食前に実施している。食事はその日のメニューに合わせ、食料店から材料を購入し、職員が調理している。利用者は食事を楽しみにされており、ご飯茶碗と箸は持ち込み品である。目の不自由な利用者にはさりげないサポートをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食後に記録させてもらい、各々の食べられた量、残される物を把握した上で、形状を刻んで食べやすくする、味付けを工夫などで必要量は食べてもらえるようにしている。水分に関しても、好みの飲み物を提供する、時間をずらしてみるなど、水分は多く飲んでもらえるように心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをしてもらえるように声を掛けて促している。困難な方については介助させてもらっている。ポリデントなどの洗浄剤を使つての除菌、清潔保持にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々チェックを付けている排泄表から、各々の排泄のパターン(時間・量・便秘日数等)を把握して適切な排泄用具の使用、トイレ誘導の声掛けをするなど、その方の状態に合わせて、自立に向けた支援を行なっている。	排泄チェック表に基づき、タイミングを見計らって声掛けをし誘導している。自立排泄できる人も多く、介助が必要な利用者は2名程度である。オムツ利用も夜間のみで、パッドのみの使用に移行したりと、職員は熱心に取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘日数を考慮して、乳製品の提供、水分摂取や体操、散歩等の活動量の調整をしての便秘予防の対応をしている。本人の状態、便秘日数の状況に応じて、処方されている下剤を服用してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や本人の気持ちに合わせて入浴日や入浴時間を変更している。過度な介助は行わずに、残存能力・可能性を活かした本人にとって、達成感、満足感の得られる入浴になるようにしている。	1階の一般浴と2階の特殊浴を、利用者の希望と身体の状態により使い分けている。週2回としているが、希望があればいつでも入浴可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はその方の生活リズムに合わせて、居室で休んでいただく時間を作っている。室内の温度や照明の調整、寒暖に適した寝具を使ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報一覧表を作り、服薬内容から服薬の目的、副作用まで職員全員が把握できるように努めている。服薬内容が変更になった場合は、本人の状態変化に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯、食事作りなどの日常の家事を職員と一緒にすることにより、自分の役割を持ってもらえるようにしている。生活の中での楽しみや、好きなこと、趣味を無くすことなく、工夫を凝らして継続できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや外食の機会には、行きたい場所や食べたい物を聞いて出掛けるようにしている。また外出を控えることが多い方に関しては、無理のない程度に、気分転換を兼ねての外出に誘うことにしている。	外出を望まない傾向にあるが、家族の付き添いで外食を楽しむ利用者もいる。季節を感じてもらえるように計画している花見等の事業所の年間行事にはほとんどの利用者が参加されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、本人と家族の方に説明と了承を得て預かることにしている。必要時には使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族の生活状況に配慮して、電話を繋いで話をしてもらっている。手紙や年賀状などの便りが届いた際にも、本人や家族と話をして、返信などの対応をとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには過剰にならない程度に、自分達で手がけた季節を感じられる作品を飾り付けている。大き目の窓もあり、開放感のある空間になっている。キッチンも広く、職員と一緒に調理できるスペースを確保している。	1日の大半を過ごす利用者が多く、フロアは広く柔らかい光が取り込まれゆったりと過ごせる空間である。利用者の作品は広い壁面に飾られている。調理場は利用者からも見える位置にあり、その日のメニューが利用者の手で大きく書かれ、食事の楽しみごとの一助となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々体調や気分によって、自由にリビング、キッチンで過ごしたり、居室で休んだりしてもらっている。食事の際の席についても気の合う方同士、トラブルの防止を含めた入居者同士の関係性を考えて配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやテレビなどの位置は使いやすいように配置してもらっている。可能な限りは自宅で使われていた馴染みのある物を持参してもらっている。	居室が2階であり、各居室からの展望が良く清潔で広い。備え付けのタンスに洗面所の設置もあり、テレビや家族写真を持ち込んでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの現状の方、思いを把握して、安全に暮らせることをもとに、過剰な支援が必要ないように、その方に適した介護用品を使用してもらっている。安全に過ごしていただく為に、職員はリスクマネジメントの意識を高く持って、業務についている。		

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	現在掲げている理念のベースについては、管理者の考えや思いが多く詰まっているが、職員全員の思いが一つとなって反映しきれていない。	職員全員で、最良のサービス提供に向けて進んでいけるような理念を掲げる。	カンファレンス、個別面談などから個々の職員の利用者への思い、自分がどう支援していきたいかなどを聞き取り、全職員で共有・理解して進んでいけるような理念を考える。	3ヶ月
2	4	運営推進会議において、議事録を委員の方々に配布していない。また、閲覧できる取り組みがない。	今回話し合った内容をまとめた議事録を各委員の方々に配布して、次回会議では前回の課題について、その後の対応についてなど密の濃い会議になるよう繋げる。また会議録をファイルにまとめ、閲覧できるようにする。	次回運営推進会議までに、前回の議事録を配布して、会議では議事録をもとに、振り返りや更なる改善点などを見つけ出し、改善に向けての取り組みを行う。	3ヶ月
3	33	現在、看取りケアを行うことに向けた実践が進んでいない。	看取りケアについての心構えや知識、必要性などを研修や病院関係者の説明を受けることで理解していけるようになる。	看取りに関しての研修に参加していき、意義や必要性を理解していく。職員全員で話し合える場を設けて、互いの看取りについての認識を深めていけるように不安点や、課題を挙げ、話し合っていく。	12ヶ月
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目の番号を記入してください。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。 グループホーム如意の里